

2010年6月22日開催 第549回 番組審議会

■ 出席委員

荒巻裕委員長 櫻井美幸副委員長 上田理恵子委員 神谷徹委員
國定浩一委員 黒田勇委員 齊藤善也委員 東野博昭委員

■ 毎日放送出席者

山本会長 河内社長 田中専務 上田専務 松島常務 河村編成局長
寺西制作局長 梅本報道局長 熊ラジオ局長 立野コンプライアンス室長
村上プロデューサー

◆テレビ番組「遺品整理人 谷崎藍子～死者が遺したメッセージ～」

5月24日（月）21時00分～22時54分

第549回番組審議会は6月22日に開かれ、テレビ番組「遺品整理人 谷崎藍子～死者が遺したメッセージ～」について意見交換しました。

各委員の主な意見は次の通り。

- * 非常に見ごたえのある作品で何度も涙が出てきて、いまだに心の中でもやもやした思いが残っている。
- * ドキュメンタリー的な面白さがあった。全体にすごく細部まで丁寧につくられている。映像がきれいで、音楽が非常によかった。好感が持てた。
- * リアリティーを追究しないとフィクションが崩れる。すごい力作なのにフィクションが崩れてしまっている。
- * 何より“遺品整理人”という仕事に興味を持てたので、飽きずに見られた。
- * よくある2時間サスペンスドラマとは明らかに一線を画した、見ごたえのあるドラマ。
- * 社会派のヒューマンサスペンスドラマということだが、作り手はこのドラマを通じて何を一番訴えたかったのか、あるいは届けたかったのか。
- * 近来にない、傑作だ。そのベースにある脚本、展開の臨場感溢れる見事さがあったからだ。

* 難しいテーマを抱えてサスペンスドラマ作りに挑戦された点を高く評価したい。新しいものを取り入れようとする意気込みが伝わってきた。

◆ 2010年度のギャラクシー賞受賞作品について担当局長が報告した。

以上